

名古屋市中・愛知県の保育界

浅野壽美子

倉橋先生から、名古屋市中と愛知県との保育界の今昔について何か書くようにとのお手紙がありました。私にはこのようなことを書くだけの経験も地位もございませんので、一度はおこわりしようかとも思いましたが、先生のいつもながらの日本の幼児を思う深いお心づかいのじみ出ているお言葉には、おこわりすることもできず、私のような拙ない経験の者でも日本の幼児のためにお役に立つことがあればと思ひ、ここに名古屋市の保育界を主として愛知県の保育界の今昔について書いてみることにしました。

私がまだ二十才代の教師としては本当にはよりない時代から、孫の二人も出来たこのお婆さん先生になるまで、十年一昔といえは三昔にもなる間、名古屋市中にして愛知県にし

ても随分いろいろなことがありました。まず私が初めて幼稚園の先生として奉職して、十年の間勉強させていたゞいた愛知県女子師範学校附属幼稚園（現在愛知学芸大学附属幼稚園）時代で一番忘れることのできなかつたことは、たしか昭和七年であつたかと思ひますが、県の保育会に県費補助を申請したことであります。なかなか明かれないのに総会の期日はようしやなく迫つてくるし、校長からは何をしているかと大目玉はいたゞくしとうとう困りはて、郡部に住んでいる収入役の家へ夜おそく車でかけつけて長い時間待つて実情を訴へ、さらにあちらこちらにかけ廻つたりしてようやく県費補助として金五千円也を初めていたゞきようやく総会が開けたということがあります。

当時、名古屋市中では坪内きく先生、石田（現

沼波）先生、木村りん先生、市川たま先生、加藤しよう先生等が御熱心に幼児教育の向上のために努力しておられました。名古屋市中で第五回全国保育大会が開かれたのはこの頃でありまして、この頃の名古屋市中保育界はなかなか盛んなものでありました。

昭和十六年六月私が名古屋市中立第三幼稚園に園長として赴任した頃は、加藤カツ先生、大島せき先生、大河内林次郎先生、国府谷しづ先生、小池長先生等が名古屋市の幼稚園教育のため大いに気力をあげ、保育会の実にも非常にあげておられました。

この頃は、全国一様に引きしまつたというよりも押しつけられる様な空気がみなぎつており、私どもは幼い子どもの心を傷けないようにとたえず力を合せて懸命に努力してきましたが、今から考えますとこの保育会の人々の気持は本当に必死でした。

昭和十九年を迎えるとすぐ、東京都の幼稚園は休園になつたとか、保育所にきりかえられたとか、といやなニュースが入つてき、間もなく名古屋市中でも附設保育所として続けいくような状態となつてしまいました。

たまたま、教育界も上は大学から下は幼稚

園まで結集して大日本教育会が結成されましたので、名古屋市の保育会も同年十月十日第二十七回の総会を最後に、連絡会を残して発展の解消することに決めました。その時の会員の気持は、実に感慨無量というか何というか言葉には尽くせないものがありました。人でしたら二十七才という働き盛りでこれからという時の解散ですから、皆何か出鼻を挫かれたようなわびしい思いで、今でも忘れられないものの一つとなっております。

その後の一年間は、相次いで閉園してゆくものやむざんにも焼失してゆくもので保育界は国の運命とともにどうなることか全くわからない状態でありまして関係者同志の連絡も全くつかなくなつてしまいました。

昭和二十年八月十五日。記念すべき終戦の日を迎えましたときは、名古屋市立幼稚園の園長として残つておりましたのは、当時の第二幼稚園長加藤カツ先生と私の二人だけでありました。その上二人とも園舎は焼かれ先生や小使は皆それぞれ職を辞して一人も居ず、手のつけようもありませんでした。しかし、目の前の子ども達は、敗戦後の騒乱の中によろしくなく放り出され、生活に多忙な大人達か

らは少しもかえりみられませんでしたので実にみじめな様子でした。そこで私は、この子ども達を一日も早く幸福にしてやるためにはまず幼稚園を開園することである。このためには今日からどんな苦心もしのぼうと考え、幼稚園を一日も早く開園するために毎日ほんそうしました。しかし、名古屋市は殆んど焦土と化し教育施設も殆んど戦災を受けて烏有に帰してしまい義務教育の学校の再開ですらまだ手についていないときでありましたので義務教育でない幼稚園などは到底問題にされません。したが、力丸学務課長（現在名古屋市女子短期大学長）と坂井掲孝（現在名古屋市教育委員会調査弘報課長）との一方ならぬ御援助と御理解によつてようやく再開するのだけはでき、先ず二十一年一月焼失をまぬかれた第一幼稚園が開園し（加藤カツ先生が園長事務取扱として）次いで二月十一日第三幼稚園が中村区広井国民学校（現在新明小学校）の教室を借りて開園しました。これとともに、私立の幼稚園もぼつぼつ焼け残つたところから再開してきましたので、旭幼稚園の園府谷先生と相談して、名古屋市で立ち上つた幼稚園の方々をおさそいして、昭和二十一年十二月五日戦後初めての会合をしましたがこの会合に参加したのは名古屋市立第一、

第二、第三、師範附幼、旭、希望、聖母、柳城、ちくさの九幼稚園にすぎませんでした。しかし、皆手をとりあつてその再開を喜び幼児教育のために今後一層協力していこうと誓いあつたことでありました。そして、早速十二月二十一日には旭幼稚園を会場として名古屋市保育会を発会しました。この時集つた幼稚園は十四園でありましたが、一同園府谷先生の御心尽しになる、いもせんざいに舌鼓をうちながら大いに会の将来を祝し幼稚園の発展を祈つたことであります。

昭和二十二年に入つて、一月十八日と六月七日に京都市において関西連合保育大会の準備会が持たれましたが、既に名古屋市においては保育会が結成されておりましたので、何か心強い思いで皆出席いたしました。この頃に名古屋市立第一幼稚園園長として渡辺ナホ先生が就任され、希望幼稚園園長の大河内四郎先生も御帰還なされました。そして再開の幼稚園もますますふえてまいりました。十月には京都市において戦後第一回の関西連合保育会が開催されましたので一同が参加しました。一方東京では、倉橋先生や内山先生等の御熱心な御尽力により幼稚園、保育所を含めた全国保育連合会の第一回が開催されました

きでありますので、名古屋市保育会からも多数出席しました。

昭和二十三年には名古屋市保育会を改称して名古屋市幼児教育会とし、保護者も会員に加えて幼稚園の振興に寄与していただくようにしました。この年に愛知県では初めて幼稚園担当の指導主事ができ、女子師範学校附属幼稚園の久田先生がその担当者となられました。また全国保育連合会の東海ブロックの結成準備も名古屋市において行われさらに全市の幼稚園児の連合運動会も開催されるなど保育界は漸く活潑な動きを見せ始めました。

なお、白壁町の柳城幼稚園が松原先生の方ならぬ御骨折りによつて新築落成しましたのもこの年の十一月でありましたが、建築の困難な時期のこの新築には皆大へん助けまさりました。

名古屋市幼児教育会は、発会以来会員の研究に修養にひたすら努めてまいりましたが、二十四年には研究部長の渡辺先生を中心に研究に大きな成果をあげました。また東海大会の第一回研究協議会が静岡で開催され、静岡山梨、長野、岐阜の各県とともに愛知県からも参加し、幼稚園保育園関係者が一堂に会して有意義な会を持つことができたのもこの年であります。

昭和二十五年は私は申すに及ばず名古屋市保育会愛知県保育界にとつても誠に忘れることのできない年でありました。

まず、四月には名古屋市立の栄、吹上、旗屋の三幼稚園が小学校に附設されました。次いで六月十六日には戦後第一の復興ともいべき第三幼稚園の新園舎（一部ではあります）の竣工式が行なわれました。当時は新制中学校の新設のため、公立としては全く新築することはできなかつたのでありますが、昭和二十一年以来二つの小学校の教室を借りて困難に困難を重ねて幼児教育に邁進してきた苦勞が市当局及び父兄の方々を動かし理事者や父兄に幼児教育の重要性が認められた結果にほかなりません。

これはたんに私の喜びばかりでなく幼児教育のためにも喜ばしいことであると思えます。さらに文部省においてもその成果を認められ今後における幼稚園施設の研究の土台とされましたことは幼稚園教育進展のためにも皆様とともに喜ばなければならぬと思えます。

なお、十月には第四回関西連合保育会研究協議会を名古屋市において開催し、千人に近い会員とともに研究の成果を挙げることでございましたことや愛知県私立幼稚園協会が誕生

し大河内先生が会長となり、翌年には全国にさがけて私立幼稚園に対する県費補助を受けるまでに活躍されましたことや愛知県公立幼稚園長会が誕生し私が会長となりましたことなど思い出の多いことが実に多かつたのであります。さらに関西国公立幼稚園長会に加入し、全国国公立幼稚園長会の結成準備に加わり全国国公立幼稚園長会の創立総会が京都市において行なわれ愛知県からも多数参加したのもこの年であります。

昭和二十六年に入り、岡山県倉敷市で開催されました第五回関西連合保育会を最後として、永年御指導をいただいた連合保育会から脱退させていただいたことは、最も淋しいことでありましたが、東海ブロックの健全な発達を図るためには止むを得ないことであると思いました。

しかし、一方愛知県国公立幼稚園長会が県費による助成の方法を考えていただくため、昨年に引続いて再三陳情を重ねてきたかいがあつて、二十七年には大休見通しがつくことが確実になりましたことは喜ばしいことであります。

なお、公私立幼稚園の関係、幼稚園・保育

所との関係について一言申しますと、名古屋
市幼児教育会は公私立幼稚園の連絡会として
必要に依りて協力して研究する機関に（目下
協議中）愛知県私立幼稚園協議会と愛知県国
公立幼稚園長会とは常に連絡提携し、保育園
とのつながりは愛知県保育連合会が連絡会と
してあり、何か協議する必要があるときは早
速協議会を開いて協議し、互いに協力すると
いう状態で極めてスムーズであり、その間に
少しのもつれもないことは何よりの誇とする
ところであります。

保育界の進展にもなつていろ／＼とその
様子も変つて行くことと思ひますが、要は
日本の子ども達が幸福で健やかに育つて行く
ことを念じる私達にとつては、その目的は一
つであります。したがつて、私達は互いに協
力して力強く幼児教育進展のために、今後も
努力する考えであります。

ふりかえつて考えますと、昭和二十一年以
来、六年間に名古屋市及び愛知県保育界は戦
前にもまして盛んになりました。

これからも、名古屋市及び愛知県の保育会
の皆さんの御支援によりまして、人一倍大き
い大河内先生と人一倍小さい私との名（迷）
？コンビで公私共に協力して公私の進展にさ
らにさらに努力し名古屋市及び愛知県の保育

界をいよいよ発展させるように努力したいと
思つております。

さらにつけ加えておきますことは、昭和二
十七年四月には市立幼稚園はさらに二園を増
設し、加うるに第一、第二、第三の三独立幼
稚園は市の理解ある御援助により同時に新增

改築が行われ八月までには何れも落成の運び
にまでまいつておりますことでもあります。こ
れは、幼児教育の必要性を理事者も一般社会
の人々も、さらに認めてきた証拠でありまし
て、本当に喜ばしいことでもあります。

